

令和5年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、国際社会のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 高いレベルでの自己実現を希求し、主体的に学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた生徒の育成を図る。</p> <p>◇ 豊かな人間性の育成と高い学力の伸長を図る。</p> <p>◇ 生徒・教職員が一体となり、社会の教育力を有効に活用しながら Sagano Dynamicsを推進する学校づくりを進める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics: the way in which things or people behave and react to each other</p> </div>	<p>① 通常授業や研究授業等において、学習用タブレット端末の活用方法の共有と改善に取り組むことができた。今後は、学力伸長に向けた取組や学校生活のあらゆる場面での活用に取り組む。一方、国際交流については、オンラインにより年間36回延べ1970名の生徒が海外の高校生と京都の伝統や日本文化について交流することができた。今後は、できるところから対面の活動も再開させていきたい。</p> <p>② 各部署からの連絡等をそれぞれに応じたアプリ等を活用することで円滑に連携ができた。また、デジタルデータの文字検索を活用すること業務改善につながった。今後は情報の共有や分掌間の協力体制をの強化していくことが必要である。</p> <p>③ 新学習指導要領に則り、3観点の観点別評価を各教科で継続的に検討し、円滑に実施することができた。今後は、教科間の実施方法を共有し、より適切な評価が行えるように努める。</p> <p>④ 日々の教育活動をとおして身だしなみやルール・マナーについて規範意識の向上を目指したり、委員会活動や学校行事において、生徒の主体性や適切な判断力、実践力を向上させることを目指した。</p> <p>⑤ 校内の教育支援コーディネーターを中心に、外部機関との連携をもちながら、様々な課題のある生徒に対して適切に対応することができた。一方、各種委員会活動による教室の換気の必要性やゴミの分別徹底の啓発ポスターなどの活動をとおして、状況の改善が見られた。しかし、節電に対する意識の向上には課題があった。</p> <p>⑥ コロナ禍でも工夫した各イベントを実施し、図書館の利用推進を図ることができた。</p> <p>⑦ 学校説明会をとおして、本校の目標や教育活動を知らせることができた。また、工夫して、地域の小学生を対象に科学教室を実施することができた。今後は、さらに本校の魅力を伝える場面を多岐にわたり設定できるように努める。また、ブログの活発な更新により、学校の様子などを知らせることができた。今後は、HPのデザインを更新しさらに見やすい分かりやすい情報公開を目指す。</p> <p>⑧ 設備の老朽化については、適宜改修を行うことができた。また、LED化や人感センサーなど時代に即した設備改善を進め、節電にもつなげる。授業配信に関して、機器整備などを進めることができた、今後状況に応じた活用方法を検討することが必要である。</p>	<p>① 魅力ある学校作り 主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。</p> <p>② 組織とその運営 分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。</p> <p>③ 学習と進路指導 新学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。</p> <p>④ 生徒指導と特別活動 人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を受け入れ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。</p> <p>⑤ 健康安全と環境美化 すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。</p> <p>⑥ メディアの活用 学校図書館の機能や役割を充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なもとのする。</p> <p>⑦ 家庭・地域社会との連携と広報活動 校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれる学校をめざす。</p>

評価領域	重点目標	R5 具体的方策	総合	成果と課題
魅力ある学校づくり	主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。	SSHを中心に重ねてきた探究活動の成果をあらゆる教育活動に波及させ、生徒の科学的な興味関心を高めるとともに、物事を科学的にとらえる視点を養う。	B	例年通りの取組に加え熊本でのフィールドワークなどさらなる取組も実施できた。また、スーパーサイエンスラボ（SSL）の「自己評価/目標（Can Do）シート」を応用して、アカデミックラボ版Can Doシートの作成に着手するなど、SSHで重ねてきた探究活動の成果が様々な探究活動の取組に発揮されている。教職員全体でのラボ活動の重要性の共有や教員の科学的視点についてのさらなる理解が課題である。
		質の高い探究活動と探究活動につながる国際交流を実践する機会をできるだけ多く提供する。海外連携校・在京留学生などとの相互交流や海外研修の機会を充実させるとともに、留学や海外進学に係る情報提供を積極的にを行い、生徒のグローバルな視点を養う。	A	オンラインに加え対面での国際交流、海外留学の機会等を持ち、グローバルな視点を養う取組を質、量ともに充実させることができた。授業の中でも国際交流の機会を多く提供し、英語でコミュニケーションを図る工夫もした。それらの活動をホームページのブログに投稿する等、活動の広報にも力を入れた。
		学習用タブレット端末を活用した授業実践を通し、個に応じた指導を進めることで学力のさらなる伸長を図るとともに、研修会や公開授業を開催し、教科の枠を越えた学習用タブレット端末の活用方法の共有を図	B	学習用タブレット端末を授業内外で活用する姿が定着してきた。学習用タブレットの導入により授業形態の選択肢が増え、個別最適な学びに繋がっている。教員研修等の機会を通してさらなる活用方法の共有が必要である。
		ICT技術も積極的に活用して、各関連部署の連携を緊密にし、情報共有や効果的な指導に役立てる。また、教員が十分な情報リテラシーを身につけることにより、生徒にとってより有効なタブレット端末の活用を推進する。	B	ICT技術を活用して各関連部署との連携を緊密にすることができたが、情報量やツールの多さ等の課題もある。情報セキュリティ実施手順を共有する等、情報の扱いについて整理することができたが、著作権の問題等、注意すべき点も多く、教職員が情報リテラシーについて研修を続ける必要がある。
組織とその運営	分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。	学校行事や学校説明会、探究活動における発表会などの各行事や取組について、分掌間の連携を密にし、全校体制で実施する。	A	文化祭、体育祭、探究発表会、朝の交通安全指導、式典会場準備、検討会等、分掌間で連携して学校体制で実施することができた。さらに内容を見直して継続できるよう検討を続ける必要がある。
		教員一人一人が様々な危機への感度を高めることにより、危機発生の未然防止に努める。	B	計画段階から細かい所までチェック体制が構築されており、危機発生が未然に防止できている。常に一歩先を見通す力、想像力をつける必要がある。ヒヤリハットの事例などから学ぶことも大切である。
		学校施設・設備の安心安全の確保のため、委託業者による法定点検のみならず、校内自主点検を加えることにより、危機管理的予防対応も可能な校内体制を構築する。	B	節目節目で設備チェックがなされており、不備を伝えやすい体制づくりができています。整備が必要な箇所に気づいた際、迅速な対応もできている。さらに危機管理への感度を高めるべく、日常的な巡回や点検体制を構築し、学校施設・設備の安心安全の確保に努めていきたい。
		照明設備のLED化、ICT設備の充実や老朽化した設備の更新などについて、計画的に効率的に予算を活用し更新整備を図り、学習環境の充実の業務改善の一層の推進のため紙媒体文書の電子化推進と、それに伴う個人情報保護や機密情報の管理などリスクマネジメントを行う。	B	照明設備のLED化により環境が大幅に改善された。エアコンやプロジェクター等の整備も進んでいる。計画的に効率的に予算を活用し、Wi-Fi環境等学習環境のさらなる改善が望まれる。
学習と進路指導	新学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。	進路ガイダンスや生徒・保護者との面談などを適切な時期に実施し、生徒が明確な将来像を描けるように働きかけるとともに、高い進路目標を目指し粘り強く努力する生徒集団の育成をはかる。	A	進路指導部が中心となって各教科や分掌と協力のもと、高い水準でガイダンスや指導等を行うことができた。1年生の卒業生講話等新たな取組も実施できた。高い進路目標を目指し粘り強く努力する生徒集団の育成をはかることができているが、それを継続するためには、学校全体として情報共有や意識改革、努力や工夫が必要である。
		新課程入試など最新の大学入試についての情報を学校全体で理解を深め、多様な入試に対応する力を育てる。	B	新課程入試についての情報収集が難しい中、来年度以降の平常補習の検討や、共通テスト「情報Ⅰ」の対応策検討など、進路指導部を中心に各教科や分掌と協力して動き出すことができている。引き続き、更なる方策の検討が必要である。入試の多様化が進む中、学校推薦型選抜、総合型選抜 等への対応についても理解を深めていく必要がある。
生徒指導と特別活動	人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を受け入れ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。	「人権三法」の確実な理解を土台に、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、多様性を尊重する意識と協調性のさらなる向上を目指し、系統的な人権学習を実施	B	人権教育推進会議を活用し、学年部等と連携を密にしながら3年間を見通した効果的な人権学習（教育）が実施できた。さらに教育内容を充実させるため、教職員研修の充実や研修時間確保の必要がある。
		学年アッセンブリー、日々のホームルーム活動などあらゆる機会に、人権意識、規範意識、基本的生活習慣の確立、主体性の向上を促す。	A	学年アッセンブリー、ホームルーム活動、登校指導や下校指導等を通して、規範意識や基本的生活習慣の確立につなげることができた。コロナ禍以降、欠席や遅刻が増える傾向にあることが気がかりである。
		とこは祭、部活動、生徒会活動などのあらゆる教育活動を通して、自己有用感、自他を尊重する態度をさらに向上させる。	A	行事や課外活動等さまざまな機会に、生徒が主体的に参加する姿勢が多く見られた。生徒会を中心にとこは祭も充実してきている。生徒発信によるルール作りにより活気ある学校にするため、生徒の活動をサポートしていきたい。
		18歳成人を踏まえた主権者教育やデジタルシチズンシップ教育を学校全体で取り組む。	B	教科指導やホームルーム活動を通して主権者教育やデジタルシチズンシップ教育を行った。ディベートを実施し、生徒が主体的に選挙制度について考える機会を持つこともできた。生徒会主導によるルールの見直しに取り組むことで主権者意識やエージェンシーの醸成につなげることができた。3年間を見通しをもった主権者教育の組み立てが必要である。
健康安全と環境美化	すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。	保護者や関係機関との連携を強化して、心身両面において支援の必要な生徒のニーズに対応し、健やかな学校生活が送れるよう支援する。その過程を通じて、高校卒業後に必要な能力を育成できるように努める。	A	保護者や保健部等関係機関が連携して支援の必要な生徒に対して個々の状況に応じたきめ細かな対応ができた。高校卒業後を見通した支援のあり方が課題である。
		教室の換気や手洗いの励行、場面に応じた適切な対応など、生徒の感染対策への意識を持続させる。換気については、教室内に設置されたCO2モニターを活用し、生徒の感染対策、学習環境への啓蒙に繋げる。	B	生徒の感染対策への意識は高く、教室の換気や手洗いの励行はできた。教室に設置されたCO2モニターを活用し、生徒の感染対策、学習環境への啓蒙に繋げる。
		清掃活動や保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。	B	保健美化委員会を中心に美化意識の向上に努め、一定の成果がみられたが、さらに意識の向上に努める必要がある。節電については、電気が点いたままの空き教室が散見される等課題があり、改善策の検討の必要がある。清掃の取り組みについてもさらに充実すべく取り組んでいきたい。
		CO2排出削減、省エネルギー等の観点から、環境意識を涵養するため、電気・ガスの使用量に関する情報共有を図る。	B	電気・ガスの使用量に関する情報共有を図る等、環境意識涵養のための取組の継続が必要である。

メディアの活用	学校図書館の機能や役割をさらに充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。	各種広報や企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。	A	図書部主導のイベントが生徒への啓発につながっており、図書館発の企画や図書館に行きたくなる工夫の充実が図れた。図書委員を中心とした生徒企画などを通じて、図書館の利用促進に取り組んだ。
		図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。	A	図書部を中心に探究活動への資料提供に努め、図書以外の資料（新聞記事等データベース）も含めた「調べ方」を案内する機会を設けた。探究活動では積極的にICT機器を活用し、活動の充実を図ることができた。
		教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。	A	図書部が教科や分掌と連携し、教科や探究活動の内容に応じた資料・図書のサポートができた。小論文対策指導へも適切なタイミングで有益な情報を提供することができた。
		学習用タブレット端末の活用法について、有用な情報を収集し、Webを活用するなどして共有を図る。	B	図書館WebOPACに調べものリンク集を作成し、学習用タブレット端末の有効な活用に役立てられるよう努めた。ミニ研修会の実施やアプリを活用した情報共有を図った。
家庭・地域社会との連携と広報活動	校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれ学校をめざす。	大学等の高等教育機関、企業や地域等と連携を進め、教育活動を充実させる。	A	ラボ活動を中心に大学や企業、地域との連携が増えている。卒業生の活用も拡大したが、さらに卒業生などとのネットワークを充実させていきたい。
		全校体制による説明会の活性化・ブログの充実・中学校訪問での丁寧な対応により受け手に響く情報発信に尽力する。	A	全校体制による説明会や中学校訪問を実施し、丁寧な対応ができた。学校説明会では生徒発信の企画も充実させることができた。ブログや中学校訪問の効果の検証をし、よりよいあり方を検証したい。
		印刷物にとらわれないより効果的な広報手法の提案と実践に努める。	B	ホームページをうまく利用した広報に取り組んだが、よりよくすべく検証の必要がある。
		新しいホームページへの切り替えを迅速に行うとともに、京都府ウェブアクセシビリティガイドラインにもとづいてホームページの充実に努める。	A	新しいホームページへの切り替えができた。マニュアルの作成等により、ブログの発信などを全教職員が行えるようになった。さらにアクセシビリティへの理解を進めて活用していく必要がある。

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 充実した教育が実施できている。さらに嵯峨野高校ならではの教育活動を推進してほしい。 充実した教育には、教職員が心身共に健康であることが不可欠である。教職員の働き方改革の検討を今後も進めてほしい。 教職員の研鑽のための研修の充実も大切である。 今年度の高校入学者選抜において嵯峨野高校への志望者が増加したことは喜ばしい。引き続き、広報活動に尽力してほしい。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新たに策定したスクールミッションとスクールポリシーに則った教育活動を推進する。 SSH事業や探究活動やグローバル教育等、本校の特色ある取組をさらに充実させる。 学習用タブレット端末を活用した教育活動の実践をさらに進める。 人権尊重の意識、規範意識を向上させる教育、命を大切にすることを継続していく。 学校行事や部活動等を充実させ、主体性ある生徒の育成に努める。 全ての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようサポートする。 観点別評価を適正に実施し、指導と評価の一体化を目指した教育を実践する。 令和7年度大学入試を見据えた進路指導のあり方を検討し、実践する。 嵯峨野ブログや学校説明会等を通して、本校の教育活動を積極的に広報する。 分掌間の連携を密に、全校体制で教育活動を推進する。 教職員研修を充実させる。 安心安全な学習環境の充実を図る。
---------------	--